

里神楽ワークショップin成城大学 ～生きている神楽～



こんにちは。私は垣澤瑞貴と申します。

これから皆様とご一緒に、わかりやすく里神楽を紐解いていきたいと思ひます。

まず、私自身の自己紹介から。

明治45年に神奈川県厚木市酒井にて創立、今年で106年目を迎えます相模里神楽垣澤社中にて、里神楽をしております。父は三代目家元である垣澤勉。幼い頃より父から稽古を受け、芸に携わってまいりました。

現在はみずき会を結成し、お教室の運営をしながらお弟子さんの指導にあたっています。また、様々なジャンルの舞台出演にも試みており、他ジャンルとのコラボや新作神楽の創作など、たくさんの方々に里神楽の魅力を知っていただくべく、日々研鑽しております。

家元である父、一番弟子であり、ソムリエ料理人である夫、昨年産まれたばかりの小さい娘と共に、今後も家族一丸となって社中を盛り立ててまいります。

● 里神楽の笛

里神楽では常に生演奏です。しかも、野外で1時間近く演奏しっぱなし!正直スポーツ並にハードです...しかしその分メリットもあり、体幹が鍛えられて太りにくくなります!ダイエットに本当におすすしめ!

今日は笛について。笛は3種類あります。

- ◆篠笛:旋律の整った軽やかで柔らかな音
- ◆王管:篠笛と能管の間
- ◆能管:旋律がわざと狂わされた重くて硬い音

聞き比べてみてください。どれもまったく違う音色で、大変面白い楽器です。これは、囃子が舞台のBGMの役割を果たしており、様々な舞台表現が必要であったことに由来します。

特に笛はギターやボーカルのようにメロディを刻む立場なので、曲数もたくさんあります!

● 舞踊譜と舞地図

正直なところ、口伝は限界です!!もちろん相对稽古は必要ですが、譜面や音源、動画がないと残せません。譜面を活用することで、時間のない現代人でも自宅で稽古できる上、早く芸を身につけることが可能です。

伝統は、昔と同じやり方では続きません。だって環境が違ひすぎますから...



● 里神楽の舞

里神楽の舞は神事としての舞に由来しています。

- ◆神事舞:神様に奉納する儀式的な舞
- ◆神楽舞:演目の中で演じられる神様の舞

神事舞は絶対的に変化のない舞ですが、神楽舞は踊りの要素も加わり、変容しています。

- ◆舞:横の稼働域(回転など)、能の基本
- ◆踊り:縦の稼働域(跳びなど)、歌舞伎舞踊の基本

地域によって舞の特色があります。

- ◆江戸流:舞を軸にした能に近い所作
- ◆相模流:踊りを軸にした歌舞伎舞踊に近い所作

役柄によって舞い方を変えています。神楽師は役者でもありますので、演じ分けることが大事です!

- ◆神前舞:儀式的な基本舞
- ◆式三番叟:勇ましい立役
- ◆もどき:ひょうきんな道化